

◆医療・看護安全点検（第2回）◆

事故発生時のマスコミ対応（その2）～もしあなたが取材に応じる立場なら～

【取材の前提と事前の注意】

- (1) 記者は基本的に素人
- (2) 質問を予測し、回答するポイントをメモしておく。これだけは伝えたいと言うことを決めておく。
- (3) 極力、複数で対応する。対応窓口は一本化し、責任者が対応する。

【取材中の注意】

- (1) 相手の目を見て話す。
- (2) 数字、固有名詞は間違えない。
- (3) 事実をベースに要領よく的確に相手が納得できるように。
- (4) 他者の悪口は言わない。利用される。
- (5) 仮定の質問には注意し、極力回答しないようにする。
(回答する時はまず一般論、原則を言ってから自分の考えを言う。)
- (6) 専門用語は使わない。
- (7) 質問は最後まで聞いてから答える。
- (8) 不意の質問にも動揺した様子や困惑した態度を出さない。
- (9) 資料とメモで補足する。
- (10) 可能な限り報道予定を確認し、必要なところに連絡する。
- (11) 取材のあったことやその内容を他のマスコミに漏らさない。
- (12) 取材終了直後の危ない質問に注意する。
(ホッとした瞬間が狙われる。送り出すまで気を抜かない。)

【緊急記者会見の原則】

- (1) 謝罪
(死傷者が出た場合、哀悼の意を表し、率直に謝罪する。)
- (2) 事実関係の詳細な開示
(嘘、結果としての嘘、自分の立場の強調はタブー)
- (3) 原因究明
- (4) 問題があれば具体的な再発防止策の開示
(具体的であればあるほど、真実味が増す。)
- (5) 責任の取り方の表明
- (6) 法的問題に十分注意。
(被害があったのは事実である。因果関係がどうか等、言わない。)

【TV、カメラ取材の注意】（現場へ直接押しかけてきた時）

- (1) 病院内への立ち入りは拒否できる。
- (2) カメラを手で遮ったり、逃げるような態度は取らない。
- (3) 外からの外観等の撮影は拒否できない。

